

せいめい小委員会議事録 (2025年12月)

日時: 2025/12/8 14:00- (TACの議論は除く)

出席者

委員: 田中 (東北大、委員長)、伊藤 (兵庫県立大)、志達 (愛媛大)、鳥羽 (立命館大)、新納 (東大)、増田 (大阪大)

陪席: 田實 (NAOJ)、野上 (京大)

オブザーバー: 泉浦、前原 (NAOJ)

議題・報告

➤ プロポーザル関連: 最大要求夜数について

- 26Aの申請では、20夜近くを要求する観測提案が複数提出され、合計すると総割り当て夜数を超えてしまう状況となっているが、何らかの制限を設けるべきか。
→ 現在はTACの判断で、高得点の提案でも要求夜数を削って対応しており、当面はこの方針を継続する。
→ すばる望遠鏡などでは実施が難しい提案を受け入れている側面もある。
- 晴天率1/3の見積もりが、要求夜数を大きくしていないか？
→ 観測内容による。明るい天体の高分散分光などでは、体感として実施率1/2程度のケースもある。
→ スカイモニターのデータからは、晴天率1/3は概ね妥当である。
→ 他の観測所では、同様の見積もりを行っていない場合も多い。
→ 特にプロポーザルのスタイル変更を求める意見はなかった。
- 26Aでは、高得点のプロポーザルでも割り当て時間を削らざるを得ない状況であった。
→ 時間削減によって影響が出ていないか、ユーザーから意見を聞く場 (UMまたはせいめい小委員会) を設けるのがよいだろう。
→ 逆に、試験的な時間を付与しているプログラムについても、次回以降に繋がっているかどうかを含め、同様の調査を行うことが望ましい。

➤ プロポーザル関連: 最小要求夜数について

- とくにプロポーザルには最小要求夜数 (すばるでは設定あり) の記載はないが、このままでよいか？
→ 現状のプロポーザルスタイルに関する変更要望は特にない。

➤ プロポーザル関連: 複数のプロポーザルが同一のターゲットを対象とする場合

- ターゲットが重複するプロポーザルをどのように扱うか。
→ ToOの発動条件が異なる場合、別提案として提出しているケースがある。
→ 現状の募集要項からとくに変更は行わない。

➤ プロポーザル関連: レフェリーに関して

- レフェリーの人数が十分でないケースが見られる。
→1 課題につき 5 名が割り振られるように努力している。現状から悪化するようであればピアレビュー方式の導入の検討され得る。
- 低い点数をつけながらコメントのないレフェリーが見られる。
→各レフェリーにコメント記入を可能な限りお願いする。
- プロポーザル関連：海外からの申請について
 - 26A の公募期間中に海外の PI から申請可能であるかの問い合わせを受けた。
→日本人 co-I がいて、観測実施体制が確立されているため、受け入れ可能と返答をした。
→現在の公募要項は日本語のみであるが、当面はそれを継続する。
→海外からのリモート観測は可能であるが、現在のリモート観測は現地観測の経験があることを条件にアカウントを発行している。
- キュー観測について
 - 0.25 夜単位の割り付けが現在の手動割り付けでは限界だが、キュー観測が実現すれば秒単位での時間管理が可能となる。
→短時間の観測を毎日継続するようなニーズに対応できる。
- 新規装置受け入れ手順について
 - 2025/11/7 に「せいめい望遠鏡の観測装置新規持ち込みに関する検討会」を開催したことが報告された。
→共同利用に供しないような観測装置でも、焦点面などを占有する場合は影響が大きいため、交通整理が必要な段階に来ている。受入プロセスでは、せいめい小委員会の協力が必要になると想定される。
→岡山分室・京都大学で受け入れプロセスの素案をまとめ、今後せいめい小委員会に相談する。
- 観測提案公募スケジュールについて
 - S26A の審査プロセスが非常にタイトなスケジュールとなったため、次回以降、とくに前期の審査スケジュールを見直す。

以上